

■目次

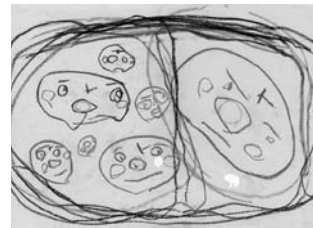
●今月のことば	佐々木哲生
●表紙のことば	大橋 功・1
「ともだちいっぱい」	
●巻頭言	井桁 容子・2
感動を共有する経験が育てる心	
●わたしの保育物語	増田 徳子・4
子どもたちとともに	
●いま、学ぶ、越える	外山 真衣・6
私と子どもたちとの日々	
●園児向け法話	佐々木智教・8
みんなながってみんないい	
●仏典童話	野呂 昶・10
はとのほどこし	
●園長のつぶやき	窪田 英嗣・14
いただきますすごちそうさま	
●食育アラカルト・北から南から	杉山 第三学園
うぬま第一幼稚園「前編」	杉山 一夫・16
保育者の心に寄り添うカウンセリング	水野美保子・16
内容あるマジョリティーと	
向きあえた園長	富田富士也・18
●なぜ？なぜ？先生	
「ナモアミダブツ」って何のこと？	
●仏教讃歌	
成道会の歌	石川紀久子・21
●「まごとの保育」のすすめ7	
撫育をたまわりて	海谷 則之・24
●教区だより	
第45回 第3ブロック	
「まごとの保育大学講座」報告	中西 智浩・28
●第60回仏教保育大学講座開催報告	保育連盟研修委員会・30

「ともだちいっぱい」

西田ころ (にしだ ころ) 3歳

聖水保育園
(京都教区)

●表紙のことば●

おおはし いさお
大橋 功岡山大学大学院
教育学研究科

園庭でお友だちと遊んだことを思い出しながら描いています。まず自分を描いた後、園庭のトラックをイメージして大きな円を何色ものバスを持ち替えてぐるぐると描き、続けて次々とお友だちを描いていったそうです。何重にも描かれたトラックの線は、自分たちが走り回った軌跡を表しているとも見られます。また、人物もたくさん色が使われており、ころちゃんもたたくさんの色が使われており、ころちゃんが色に関心を持ち、色を使うことを楽しんでいることがわかります。

三歳頃は、果物の色のような一部のものの以外には、固有色を概念的に使うということはありません。また、顔を表情豊かに描いていますが、顔だけをイメージしているのではありません。顔をシンボルとして、その人のすべてを表現しているのです。ですから、大人の概念的な色の使い方を教える必要はありません。ころちゃんが、力強く迷いの無い線で、たたくさんのお友だちと楽しく遊んだことを伝えていることが素晴らしいのです。